

# 台風が残した爪痕 ——— 災害に強いまちを目指して

9月に町を襲った台風15号では、家屋被害や農業被害等のほか、長期間にわたる停電が続きました。また10月の台風19号では、町内全域に避難勧告を発令し、その後洪水警報による避難準備・高齢者等準備開始を一部地域に発令しました。

町は1カ月ほどの間で2度も被災し、大きな混乱を生じました。皆さんは、いのちと暮らしを守る準備と行動ができましたか。



▲暴風による倒木

## 台風15号

暴風と大雨により、家屋の損傷や農業被害が多発したほか、倒木により長期停電が発生しました。

住宅被害 約497件  
 停電件数 約2700軒  
 町道被害 約80カ所  
 (倒木や土砂崩れなど)  
 農作物被害 約3億5255万円  
 避難者数 延べ83世帯 181人

## 台風19号

大雨と暴風により、避難勧告を発令。また、利根川上流地域の大雨により下流部で洪水警報が発表され、避難準備・高齢者等準備開始を一部地域に発令し、多くの町民が避難所や安全な場所へ避難しました。

避難者数 延べ170世帯 399人



▲河川敷も水で溢れる



国土交通省  
関東地方整備局  
利根川下流河川事務所  
地域防災調整官  
勝俣 猛さん

## 災害から人命と財産を守る 利根川下流河川事務所

# 台風19号に ついて聞く

### 24時間体制で水位を監視 いのちと暮らしを守る

利根川下流河川事務所では、河川管理を含め堤防などの整備をしています。災害が予想されるときには、利根川にある水位観測所や利根川流域の雨量に注視し、24時間体制で川の水位を監視しています。

台風19号では、利根川流域の群

馬や栃木での雨量が多かったことから、台風通過翌日の13日、各自治体に洪水警報が発令されました。これは水位観測所が氾濫危険水位に達したことによるものです。基準レベルとしては5段階中の4に該当し、いつ氾濫してもおかしくない状態とされるもので、避難などの対応を求める段階でした。しかしながら上流での水位が下がり始めていたこともあり、堤防を超えることはないだろうと予測されました。

堤防は基本的に土ですが、厚みがあり、ある程度の水圧に耐えられます。しかし、水の勢いで河岸が削られたり、堤防の漏水が拡大した場合などは、堤防を超える洪水でなくとも、堤防が決壊する恐れがあります。こういったことがないように、洪水時には堤防などの河川管理施設に異常がないか監視を行っています。

**警報は油断しないで**

今度、同じような状況になったときに、今回の洪水警報が大丈夫だったからと油断しないでください。また、利根川は流域が広いので、台風や前線豪雨が過ぎて晴れたとしても、上流に降った雨が今回の洪水のように遅れてくるので注意が必要です。町からの避難情報を確認するとともに、安全確保を図ってください。テレビやインターネットでも情報収集できます。

## 避難を開始するタイミング

いつ避難すれば  
良いの？



身を守るためには、早めの避難（自主避難）が大切です。危険を察知したらすみやかに避難しましょう。

雨の降り方が異常だ／山の様子がいつもと違う／土砂災害警戒情報が発表された／避難勧告等が発令されたなど

避難にあたっては、正確な情報を入手し、できる限り危険な場所を避け、近所の方と協力して避難してください。動きやすい服装で2人以上で避難し、河川や用水路には近づかず、できる限り日没までに避難しましょう。

また、町から「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示（緊急）」が発令された地域の方は、すみやかに避難または、状況に応じて安全と思われる避難方法をとってください。

	警戒レベル ①	警戒レベル ②	警戒レベル ③	警戒レベル ④
気象庁等 が発表	早期注意情報	注意報級	警報級	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報など
町が発令			避難準備・ 高齢者等避難開始	避難勧告
避難行動 など	心構えを高める	避難行動の確認	避難に時間を 要する人は避難	<b>全員避難！</b> 安全な場所へ避難

警戒レベル⑤ **避難指示（緊急）** は、すでに災害が発生している状況です（大雨特別警報、氾濫発生情報など）